

令和6年度富里市芸術鑑賞事業

# 金澤安宏展

7/2  
(Tue)

7/24  
(Wed)



イリアト

16.0×16.0×7.4cm

## ギャラリートーク

2日共、同じ内容です。

7/7(Sun) 7/14(Sun)

14:00~15:00

## 作家来館日

7/7(Sun) 7/14(Sun) 7/20(Sat)

11:00~17:00

とみらいテラス  
TOMIRAI TERRACE

富里市立図書館内1階ギャラリーA  
千葉県富里市七栄 653-1

入場無料

休館日…7/8(Mon)、7/16(Tue)、7/22(Mon)

■火~木	9:30~18:00
■金	9:30~19:00
■土・日・祝日	9:30~17:00



「移動」「構成」「光と陰影」の3つのテーマで制作した  
金澤安宏先生の平面作品、半立体作品、写真作品を展示します。

「移動」「移動」

40数年前、高校の美術教師になった頃、もつと制作出来ると思っていたら、とても忙しく、制作したいの出来ない日々を過ごしていた。河原温という概念芸術の巨匠がいる。河原温のように日常を作品化してみようと考えた。纏まった時間が確保出来ない中で、有効な手段に思えた。それで「千円札の番号を記録」してみたり、「車で走行した距離を記録」してみたりということ始めた。日記文学があるが、これらは日記的美術である。ふと気が付くと、これらのことは全て「移動」に関することだった。「日常を過ごすこと」は、「生きること」は、「移動すること」だった。コロナ禍当時、人々の「移動」への欲求は、更に顕在化された。また、美術は「自由」を表現することだとも言える。「自由」とは、「移動出来ること」に他ならない。刑罰は自由を奪うことだが、それは移動出来なくすることである。そして、移動には当然「時間」も含まれる。「どこでもドア」は無いのだから瞬間移動はあり得ない。「空間的移動」と共に「時間的移動」もまた作品のテーマである。以下は、「移動」をテーマにした個々の作品についての簡単な解説である。(金澤安宏)

「構成」

若い頃、制作活動を始めた頃から「構成」を作品のテーマの一つにしている。現在は、構成をテーマに、「イリアト」と名付けたレリーフ状の半立体作品を制作している。制作活動を開始した40数年前頃、ミニマルアートが大流行で、「絵画からイリュージョンを排除すること」「絵画を物質として提示すること」が現代美術の一大潮流のようだった。(が、今にして思えば、美術のピエースの一つに過ぎなかった。)絵画の物質感を強調する手取り早い手法としては、壁から手前に出せば良いのだった。ジャッドやステラがそうしたように「イリアト」において「イリュージョン」と「記録性」を排除し、作品と作品を取り巻く空間における「均整の取れた形と色彩のバランス」を追求している。作業としては、木片を切断し、やすりをかけて組み立ててみて、ピタッとハマると一人でニヤニヤ満足し、ばらしてパーツごとに着色し、接着しながら組み立てて完成させる。小学校高学年から中学校の頃、模型飛行機やプラモデルを幾つか作ったが、あの懐かしい記憶とほぼ同様の作業である。また、「移動」と関連して言えば、作品を眺めながら、右へ、左へ、移動してみたい。視点移動によって、作品の様相が変化する。(金澤安宏)



「イリアト」

小学校高学年から中学校の頃、模型飛行機やプラモデルを幾つか作ったが、あの懐かしい記憶とほぼ同様の作業である。また、「移動」と関連して言えば、作品を眺めながら、右へ、左へ、移動してみたい。視点移動によって、作品の様相が変化する。(金澤安宏)

- ファイル「千円札使用記録」※
- ファイル「走行記録」※
- ファイル「スタンプ・コレクション」※

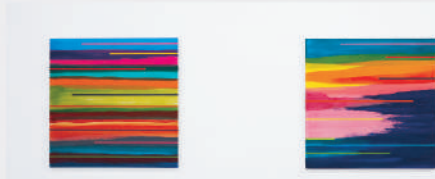
私の手元に来た千円札を移動させた記録。  
私が車で移動した記録。  
全国各地にスタンプが設置してあり、スタンプを見かけると喜んで押してみる。その場に私が移動して存在した記録。  
私が電車で移動した記録  
各地で、凹凸があるプレートなどをフロッタージュした記録。  
ファイルの「千円札使用記録」をヴィジュアル化した写真作品。  
移動する電車の車窓から、外の景色を、スローシャッターで撮影した写真。  
写真作品「光跡」を基に描いた絵画。

- ファイル「休日おでかけバス」※
- ファイル「フロッタージュ」※

写真作品「千円札使用記録」

写真作品「光跡」

絵画作品「流景」



絵画作品「流景」

※ファイル作品は、7/7・7/14開催のギャリートークのみの展示になります。

「光と陰影」



「カゲイロ」

「光と陰影」をテーマに「カゲイロ」と名付けた作品を制作している。これは「イリアト」から派生した作品である。「イリアト」に射す光によって、作品に複雑な陰影が発生することがある。この影を作品に出来ないか考えた。影を生み出すために画面に凹凸をつけてみた。「イリアト」で排除した「イリュージョン」を復活させた作品でもある。(金澤安宏)

金澤安宏

YASUHIRO  
KANAZAWA

略歴

- 1957年 福島県福島市生まれ
- 1980年 筑波大学芸術専門学群卒業
- 1980年～2018年 千葉県公立高等学校美術教諭
- 2007年～2018年 千葉県立富里高等学校勤務
- 2018年 定年退職

主なグループ展

- 2016年 廖修平と日本の15人の弟子達展 (ギャルリーヴィヴァン / 東京)
- 2018年 十波展 (台湾美術院芸術空間 / 台湾)
- 2019年 八壁展 (ギャラリー檜B・C / 東京)
- 晴れやかな諦念 (ギャラリー檜e・F / 東京)
- 追悼 山口勝弘 僕たちのヤマカツ先生展 (筑波大学学生会館 / 茨城)
- 2021年 線と時間 (ギャラリー檜B・C / 東京)
- 2023年 街展 (ギャラリー檜B / 東京)
- 廖修平と弟子たち展 (Hideharu Fukasaku Gallery Yokohama / 神奈川)
- 2024年 八壁展 (ギャラリー檜B・C / 東京) ほかに、BOX ART OF 90、芝山野外アート展、八鶴の会 など多数

主な個展

- 2016年 ギャラリー檜e (東京)
- 2019年 ギャラリー睦 (千葉)
- 2020年 ギャラリー檜e (東京)
- 2021年 ギャラリー睦 (千葉)
- 2022年 ギャラリー檜B (東京)
- 2023年 ギャラリー睦 (千葉)
- ほか、コバヤシ画廊、ギャラリーなつか、アートスペース羅針盤、T-BOX など



〒286-0221  
千葉県富里市七栄653-1

富里市立図書館  
1階ギャラリーA 入場無料

お問い合わせ  
富里市教育委員会教育部生涯学習課  
☎0476-93-7641

アクセス

- 車 富里ICから約10分  
JR成田駅・京成成田駅から約20分  
JR八街駅から約30分
- バス 京成成田駅東口発両国行き約30分  
「富里中学校」下車